三井新成議員

豪雪対策強化と雪捨場の確保は

町民を守る責任意識を持ってあたる

質問・・・情報の収集と各課の連携、指揮系統はどう考えているか。

町長・・・気象情報の早期提供を行うために、ウェザーニュースを採用する。県建設事務所と連携して、国道20号を最重要緊急確保路線として、計画的に除雪を進め、通行止めの長期化を回避する。また、町民の安否確認は、それぞれの区と町職員にて対応する。警戒警報の発令とともに、町長を最高責任者として、指揮系統が乱れる事のないように体制づくりを行う。

質問・・・指定管理との連携と路線分担は。

町長・・・西山方面はパノラマスキー場、鉢巻道路方面は富士見高原管理会社、その他主要幹線は建設協会で分担して除雪を行う。該当する業者は事前に会議をもち、計画づくりを行った。

質問・・・排雪場所の確保はできているか。

町長・・・町の幹線道路の排雪場所は6箇所確保してある。各区内の排雪場所は、それぞれの区にお願いし確保した。

■エコーライン沿線整備について

質問・・・観光施設が整備できる準備のため、上水道の配水区域の拡大とエコーラインの北杜市までの延長の考えは。

町長・・・かなりの部分が農業振興地域であり、整備計画には、リスクが高い。道路の延長事業には100億円との試算もあり、地元が積極的にならないことも無理な要因となっている。

■地域コミュニティについて

質問・・・町民の各区政や町政への関わりについて関心が薄れていく現状をどう考えているか。

町長・・・住民懇談会を開催しても参加者が少ない。自分の暮らしが第一で町の将来が大きく左右されるような問題が無いと思われる。

■放射能測定器について

質問・・・放射能測定器の使用状況と、今後の課題は。

子ども課長・・・10月より学校・保育園向けの給食用食材72品目を検査している。協力者の増員を呼びかけたい。

□その他の質問
＊防災対策について

五味平一議員

富士見ワインバレー構想の現況と今後は

まずは徹底した調査から始める

質問・・・ワインバレーが始動したようであるが、場所とその規模は。

町長・・・現在予定している場所は、県営メガソーラの下方にある机地区である。規模はグラウンドを含め約2・4haである。ワインボトルで24000本を予定している。

質問・・・ワインバレーの補正予算はどのように執行されているのか。今後の予定は

町長・・・今年度の補正予算は、専門家による具体的調査とビジネスプランの作成を行う。27年度に経営者を決定すると共に、苗を発注し予定の土地にブドウ苗を移植する。ワインの生産が始まるのは、平成30年を目指している。

質問・・・ブドウ栽培を行う場所について土壌・日照時間・温度・水はけ等の調査をどのように行い、確定したか。

町長・・・県のワインバレー協会の専門家が概要をチェックした段階である。26年度中にビジネスプラン作成と同時に更なる調査を行いブドウ品種の決定を行う。気温マイナス十度が7日間続くと、ブドウにわるい影響が出る問題もあるため、十分にチェックしなければならない。

質問・・・ブドウ栽培について事業開始後、町内適地への水平展開は。

町長・・・町内には耕作放棄地があるが担い手はいない。栽培適地が多々見受けられる。これを成功完成させ地域農業の水平展開を行う。

質問・・・ワインブドウの生産者選任はどのように行うのか。また指導方法は。確定時期は。

町長・・・ワイン協会にお願いし公募する。指導を受けながら選定したい。

質問・・・ワイナリー経営についての考えは。また、建設費用等についての考えは。

町長・・・投資は全部含めて一億円くらいかかる。初期投資は町が行い、グラウンドの造成費は補助金で賄う。ワイナリーについては6000万くらいかかるが、国が半分を補助し残りは経営者の負担となる。

□その他の質問
＊富士見町豪雪災害対策本部報告書からみる危機管理体制について